

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七二・〇七

全斗換来日阻止 96羽田現地 闘争勝利！ 三里塚ジェット闘争勝利！ 行革粉碎！ 臨調

侵略・虐殺の歴史を精算し、オニの朝鮮侵略戦争を挑発する全一天皇中曽根会談を許すな！

9月6日、韓国大統領・全斗換が日本に来ようとしています。
われわれは、現下の日帝・中曽根による軍事大国化攻撃のなかで、全斗換の来日がいかなる意味をもつのかについてしっかりと見据え、実力阻止を闘いぬかなければなりません。

米一韓一日一体の侵略戦争体制強化を狙う全来日

全斗換は、米帝・日帝の全面的支援によりクーデターをもって登場した真正正銘の軍事政権であり、一九八〇年光州蜂起に決起した朝鮮人民にたいする大量虐殺を強行した張本人であります。
全斗換来日のねらいは、米帝を中心としたアジア・朝鮮半島への米・韓・日の侵略体制づくりであることはあきらかです。

そもそも全斗換政権（その前の朴政権も）は、米帝の全面的な軍事援助と日帝の全面的な経済援助・テコ入れのみを頼みに常時「戒厳令体制」による国民の一切の権利・自由を圧殺して生きている世界でも指おりの腐敗した暗黒軍事政権です。

そして、当然にもこうした弱い全斗換軍事政権は、米帝・日帝それぞれの経済的破局のなかで自らも危機に直面しており、これを軍事力をもって突破するために全斗換の来日を期に、より一層、米一韓一日一体となったアジア・朝鮮半島にたいする侵略戦争体制づくりと「三八度線」をめぐる戦争挑発にうってでようとしているのです。

朝鮮人民大虐殺の暗黒軍事政権 全を許すな！

これら来日の目的といまひとつ重大なことは、一九八〇年朝鮮の労働者・学生・人民による光州蜂起の闘いに全斗換は、大量虐殺をもって鎮圧し、「皆殺し」を命じ、労働者・学生・人民を虫けらのごとく虐殺したのであり、こうした全斗換の来日を許すことはいまなお光州蜂起をひきつぎ、軍事制圧下にあつて不屈に闘いつづけている朝鮮人民を裏切ることであり、軍事独裁政権をさらに延命させることになるのです。

こうした状況のもとで、国家権力は八三年一月のレーガン訪日に倍する警備体制をとり、史上空前の二万三千名にもおよぶ警察官を配置するこ

とを发表し、一カ月も前から「訓練」を開始するなど異常な戒厳体制をとっています。しかも、「来日警備」と称し、全斗換の「行動範囲」内は、「人と物」を一掃するという断じて許すことのできない予防弾圧までおこなっているのです。この「警戒体制」の異常なことこそ全斗換の来日の意味をはつきりと見るができます。

闘う朝鮮人民と連帯し、全一中曽根反動体制打倒へ

これにたいして日本の既成の革新政党および労働運動は、総屈服し、唯一三里塚闘争を闘う戦闘的的人士北原（反対同盟）・浅田（東実）・永井（関実）・中野（動労千葉）の各氏をはじめ多くの人々により、全斗換来日阻止闘争が呼びかけられ、日本のすべての戦闘的、労働者・人民にたいして総決起し、共に闘うことが訴えられています。われわれは、これにこたへることに、いま日帝・中曽根の軍事大国化に真に対決する道としてたたかいぬいている、三里塚一國鉄決戦の階級的思想と実力闘争をもって、何よりも血のさけびで決起している朝鮮人民・在日朝鮮人民と固く連帯し、全力をあげて決起しなければなりません。

九月全斗換来日阻止闘争のよびかけ（よびかけ人）（八月十九日現在）
浅田 光輝 東京実行委員会・立正大学教授
永井 満 全関西実行委員会・淡路国際空港反対同盟
桑原 重夫 日本キリスト教団
津富田 教義 津富田教会
北原 勉治 三里塚芝山連合空港反対同盟
中野 洋 国鉄千葉動力車労働組合
関川 幸 同 組合
渡辺 喜美江 北富士忍草母の会
天野 美恵 同
小西のぶ子 反戦被爆者の会
松本 栄二 佐世保の海を守る会
小西 武夫 弁護士
伊藤 鉄東 8・9長崎反戦闘争実行委員会
瀬川 博 部落解放同盟荒本支部
川田 泰代 フリージャーナリスト
石田 郁夫 作家

丸山 昭雄 日蓮宗僧侶
高島 喜久男 労働運動評論家
古波津 英興 沖縄民権の会（神父）
国枝 夏夫 カトリック福生教会
青柳 晃玄 全群馬実行委員会
長谷川 英憲 杉並革新連盟
小西 誠 航空自衛隊三等空曹
鎌田 雅志 全学連
賛同人
加田 永吉 関西国際空港建設反対同盟石住民の会
山本 善徳 新関西国際空港建設反対同盟区民の会
中島 昭八 姫路いのちを守る会
森田 恒一 牧師
辻岡 豊 元豊岐部東小教頭
戸次 公正 真宗大谷派僧侶
大槻 泰生 中四国救援連絡センター
鷲田 清憲 日本原爆民「タ

全組員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！